**住吉神社**

住吉神社には、合わせて住吉の神々と呼ばれ、海と船乗りの守護神として知られる神道の重要な三神、ソコツツ、ナカツツ、ウワツツが祀られています。日本の神話によると、これらの神々は創造神イザナギが水に身を浸して行った最初の浄めの結果として生まれました。イザナギの浄めの結果、他の多くの神々も生み出され、それらの神々すべてがここに祀られています。日本の生活と文化における海の、また神道信仰における浄めの神話の重要性は、日本全国に2,000以上の住吉神社があるという事実によって証明されています。

　　　　　この神社がいつ建てられたのかは定かではありませんが、何世紀にもわたって、何度も移転したと考えられています。過去において、特に明治天皇（1852〜1912）が神道を国教に制定し、住吉神社など古代神話に関連する場所での参拝や、その維持活動を奨励した明治時代（1868〜1912）には、住吉神社の境内は現在よりかなり広かったのです。1914年までに、住吉神社の人気は最寄駅から境内まで線路が延長されるほどまでに高まりました。1929年まで、参拝客を神社に運ぶため、地元の青年協会のメンバーがこれらの線路に沿って荷車を押しました。